

平成22年度 病害虫発生予察注意報 第1号

病害虫名： チャバネアオカメムシ

対象作物： ナシおよびリンゴ等

1. 注意報の内容

- (1) 対象地域 都内全域
- (2) 発生量 多

2. 注意報発令の根拠

- (1) フェロモントラップにおける誘殺数は、6月4～6半旬は半旬あたり平均31.7頭で平年より少なく推移した。しかし、7月に入ると増加し、同月3半旬は多発した平成18年より少ないものの82.5頭と平年の2.2倍となった(図1)。
- (2) 予察灯における誘殺数は、7月2半旬に急増し平年の13.5倍となった。また、クサギカメムシも同様に増加傾向が見られる。このような発生消長は、果樹カメムシ類が多発しナシやカキ等に大きな被害をもたらした平成18年に類似している(図2)。
- (3) 平成22年春の飛散花粉数は前年の22%(東京都福祉保健局発表)であることから、本年のスギ・ヒノキの球果量は少ないと予想される。そのため、果樹カメムシ類はスギ・ヒノキから早期に離脱し、果樹園に飛来する可能性が高い。

3. 防除対策

- (1) カメムシ類は夜温が高く、風の穏やかな日に飛来が多くなる。このような日は特に注意して園内外を観察する。
- (2) 果樹園への飛来が認められたら、表1を参照して薬剤を散布する。
- (3) 防除は、果樹園への飛来が多い夕刻や活動が不活発な早朝に行なうのがよい。
- (4) 合成ピレスロイド剤は、ハダニ類の発生を助長することがあるので注意して使用する。

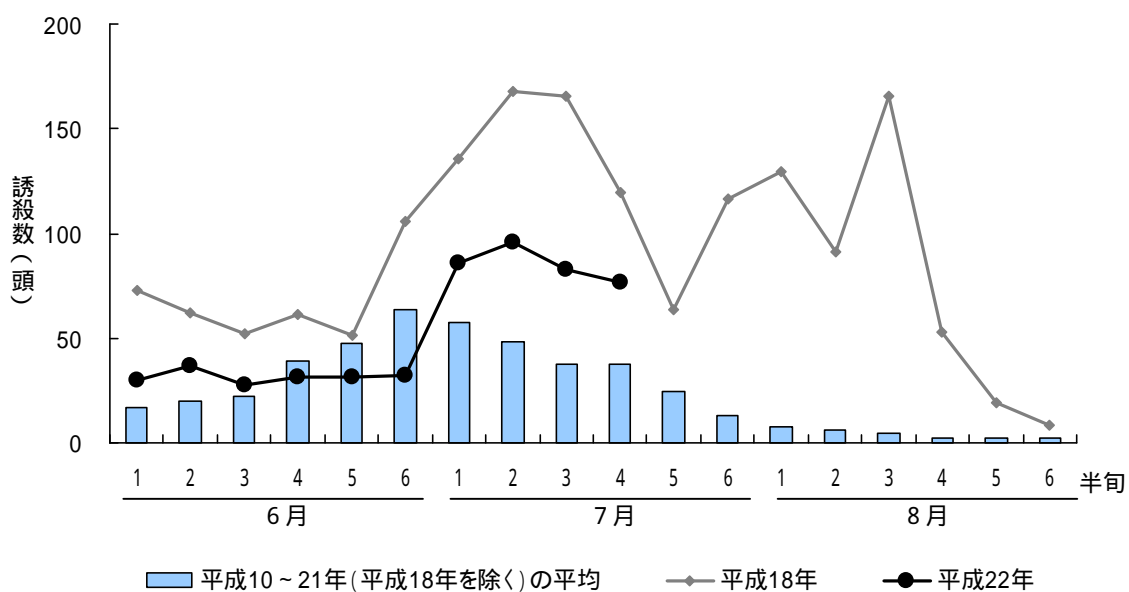


図1 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの発消長 (立川市)

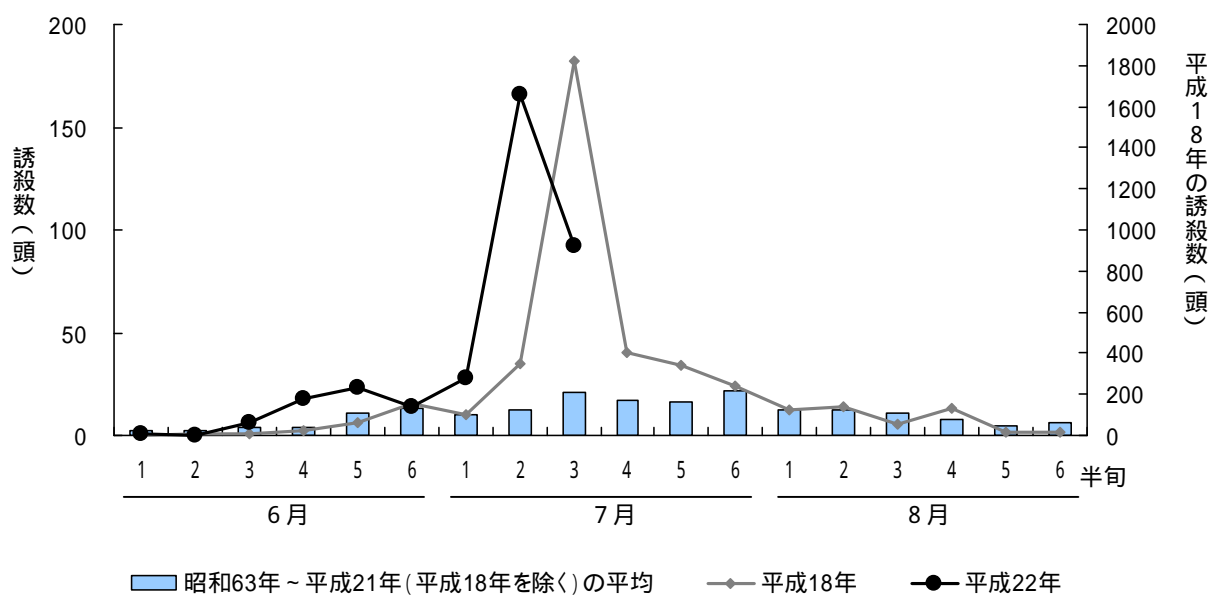


図2 予察灯におけるチャバネアオカメムシの発消長 (立川市)

表1 主な防除薬剤

薬剤名	薬剤の系統	使用時期(日)	使用回数	ナシ	リンゴ
アドマイヤー顆粒水和剤*	ネオニコチノイド*	3	2		
アドマイヤー水和剤	ネオニコチノイド*	3	2		
ベストガード水溶剤*	ネオニコチノイド*	14	3		
アクタラ顆粒水溶剤*	ネオニコチノイド*	ナシ1 リンゴ7	ナシ3 リンゴ2		
アルバリン顆粒水溶剤*	ネオニコチノイド*	1	3		
スタークル顆粒水溶剤*	ネオニコチノイド*	1	3		
ダントツ水溶剤*	ネオニコチノイド*	1	3		
モスピラン水溶剤*	ネオニコチノイド*	1	3		
スプラサイド水和剤*	有機リン	ナシ7 ナシ45 リンゴ30	ナシ3 ナシ2 リンゴ2	有袋 無袋	
スミチオン水和剤40	有機リン	ナシ14 ナシ21 リンゴ30	ナシ6 ナシ6 リンゴ3	有袋 無袋	
スミチオン乳剤	有機リン	14 21	6 6	有袋 無袋	
ア - デント水和剤*	合成ピレストロイド*	7	3		
アグロスリン水和剤*	合成ピレストロイド*	1	3		
アディオオン乳剤*	合成ピレストロイド*	1	2		
アディオオンフロアブル*	合成ピレストロイド*	1	2		
サイハロン水和剤*	合成ピレストロイド*	7	3		
スカウトフロアブル*	合成ピレストロイド*	1	5		
テルスター水和剤*	合成ピレストロイド*	1	2		
ロディー水和剤*	合成ピレストロイド*	1	2		
MR. ジョーカー水和剤*	合成ピレストロイド*	14	2		

注1) *印の農薬は桑園の近くで散布しない。

注2) 農薬を使用する際は、ラベルの記載事項を確認してください。

.....
 防除所ホームページ <http://www.jpjn.ne.jp/tokyo>
 今後の予察情報にご注意下さい。
 E-mailアドレス S0200303@section.metro.tokyo.jp